

安全データシート

【1. 化学物質等及び会社情報】

化学品の名称:	ステアリン酸マグネシウム、ステアリン酸亜鉛複合品 (脂肪酸マグネシウム、脂肪酸亜鉛複合品)
製品名:	ダイワックス MZH
会社名:	大日化学工業株式会社
住所:	東大阪市中石切町7丁目3番4号
担当部門:	技術部
電話番号:	072-985-1851
緊急連絡先:	072-985-1851
FAX番号:	072-987-0170
推奨用途:	樹脂用添加剤

【2. 危険有害性の要約】

化学品のGHS分類

物理化学的危険性

可燃性固体:	分類できない
自然発火性固体:	区分に該当しない
自己発熱性化学品:	分類できない
水反応可燃性固体:	区分に該当しない
金属腐食性物質:	分類できない その他に関しては区分に該当しない

人健康有害性

急性毒性(経口):	区分に該当しない
急性毒性(経皮):	区分に該当しない
急性毒性(吸入:気体):	区分に該当しない
急性毒性(吸入:蒸気):	区分に該当しない
急性毒性(吸入:粉塵、ミスト):	区分に該当しない
皮膚腐食性/皮膚刺激性:	区分3
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性:	区分2B
呼吸器感作性:	分類できない
皮膚感作性:	分類できない
生殖細胞変異原性:	分類できない
発がん性:	分類できない
生殖毒性:	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露):	分類できない
特定標的臓器毒性(反復ばく露):	分類できない
誤えん有害性:	分類できない

環境有害性

水生環境有害性 短期(急性):	区分に該当しない
水生環境有害性 長期(慢性):	区分に該当しない
オゾン層への有害性:	分類できない

他の危険有害性

粉じん爆発危険性:	粉じん爆発の危険性有
-----------	------------

ラベル要素

絵表示又はシンボル:	なし
注意喚起語:	警告
危険有害性情報:	軽度の皮膚刺激 眼刺激

安全データシート

注意書き:

<安全対策>

使用前にSDSを参照すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
取り扱った後は、手や眼を洗うこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
粉じんの発生を避けること。微粉の場合は粉じん爆発の危険性も考えられるので多量の取り扱いには注意すること。

<応急措置>

皮膚に付着した場合:皮膚刺激が生じた場合、医師の診察/手当を求めること。
眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合、医師の診察/手当を求めること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。

<保管>

容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。

<廃棄>

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

【3. 組成、成分情報】

化学物質・混合物の区分:

混合物

化学名又は一般名:

化学名	ステアリン酸マグネシウム	ステアリン酸亜鉛
化学式	$Mg(C_{18}H_{35}O_2)_2$	$Zn(C_{18}H_{35}O_2)_2$
含有量(%)	50	50
CAS番号	557-04-0	557-05-1
官報公示整理番号(化審法)	2-611	2-615
官報公示整理番号(安衛法)	既存	既存
TSCA	収載	収載
EINECS	209-150-3	209-151-9
PRTR法対象物質	—	—
安衛法対象物質	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号~第2号別表第9)(ステアリン酸マグネシウム)	—
毒劇法対象物質	—	—

化学名	脂肪酸C16-18,マグネシウム塩	脂肪酸,C16-C18亜鉛塩
化学式	$Mg(C_{2n}H_{2n-1}O_2)_2$ n=16-18	$Zn(C_{2n}H_{2n-1}O_2)_2$ n=16-18
含有量(%)	50	50
CAS番号	91031-63-9	91051-01-3
官報公示整理番号(化審法)	2-611	2-615
官報公示整理番号(安衛法)	既存	既存
TSCA	収載	収載
EINECS	292-967-2	293-049-4
PRTR法対象物質	—	—
安衛法対象物質	名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(ステアリン酸亜鉛)(ステアリン酸マグネシウム)	—
毒劇法対象物質	—	—

危険有害成分:

特になし

【4. 応急措置】

吸入した場合:

空気の新鮮な場所に移し、安静保安に努める。
呼吸停止の場合は、人工呼吸を行う。
呼吸困難の場合は、酸素吸入を行う。
気分が悪い時は医師の診断を受ける。

安全データシート

皮膚に付着した場合:	石鹼水で洗い、その後清水で十分に洗い流す。 皮膚を流水/シャワーで洗うこと。 気分が悪い時は医師の診断を受ける。
眼に入った場合:	直ちに清水で十分に洗い流す。 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合、水で数分間注意深く洗うこと。 気分が悪い時は医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄する。 気分が悪い時は、医師の診断を受ける。 意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
【5. 火災時の措置】	
適切な消火剤:	泡消火薬剤、粉末消火薬剤、水噴霧
使ってはならない消火剤:	棒状の水
火災時の特有の危険有害性:	火災時に刺激性、もしくは有毒なフュームやガスを生じる。
消火を行う者の保護:	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
【6. 漏出時の措置】	
人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時処置:	作業者は適切な保護具(8. 暴露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、皮膚への接触や吸入を避ける。 多量の場合、人を安全に避難させる。 必要に応じた換気を行う。
環境に対する注意事項:	河川や下水に放出しない。
封じ込め及び浄化の方法及 び機材:	粉じんの飛散に注意しながら粉じん爆発安全対策仕様の掃除機、箒等を使用し、粉塵が舞わないよう空容器に回収する。
二次災害の防止策:	付近の着火源となる物を速やかに取り除く。
【7. 取扱い及び保管上の注意】	
取り扱い	
技術的対策:	「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、適切な保護具を着用する。局所排気、全体換気を行う。
安全取り扱い注意事項:	周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 接触、吸入又は飲み込まない。 空気中の濃度を暴露限界以下に保つために排気用の換気を行う。 指定された場所以外では、飲食、喫煙を行ってはならない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避:	「10. 安定性及び反応性」を参照
保管	
保管条件:	容器は密封し、高温物を避け、換気の良い所に保管する。 スパーク、火花、火気、熱源より遠ざける。 一定の場所を定め、冷乾所に保管する。
容器包装材料:	帯電防止を施した容器を使用する。 密閉式の破損しない容器に入れる。
【8. ばく露防止及び保護措置】	
許容濃度等:	日本産業衛生学会は、本製品物質の粉塵に関する許容濃度は定めてはいないが、粉塵については一般的に以下のデータがある。 日本産業衛生学会勧告値(2018年) 第三種粉塵 時間荷重平均値:吸入性粉塵 2mg/m ³ 、総粉塵 8mg/m ³
設備対策:	防塵設備を勧める。十分な換気を行う。 眼洗浄施設及び安全シャワーを設置する。
保護具	
呼吸用保護具:	防塵マスク等の適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具:	ゴム保護手袋等の適切な手袋を着用すること。
眼の保護具:	保護眼鏡等の適切な眼の保護具を着用すること。

安全データシート

顔面の保護具: 顔面保護マスク等の適切な顔面の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具: 長袖作業着等の適切な保護衣を着用すること。
注意事項: 取扱後はよく手を洗うこと。

【9. 物理的及び化学的性質】

物理状態: 粉末
色: 白色
臭い: データなし
融点/凝固点: 約120~140°C
沸点又は初留点及び沸騰範囲: データなし
可燃性: データなし
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界: 下限濃度60mg/L(ステアリン酸亜鉛)、40mg/L(ステアリン酸マグネシウム)
引火点: データなし
自然発火点: 300°C以上
分解温度: 250°C以上
pH: データなし
動粘性率: データなし
溶解度: 水に不溶。石油、ベンゼン、トルエンに僅かに溶解。
n-オクタノール/水分配係数(log値): データなし
蒸気圧: データなし
密度及び/又は相対密度: データなし
相対ガス密度: データなし
粒子特性: データなし

【10. 安定性及び反応性】

反応性: 特記すべきことなし。
化学的安定性: 通常条件下では安定である。
危険有害反応可能性: データなし
避けるべき条件: 高温に加熱しない。粉末または顆粒状で空気と混合すると粉塵爆発の危険性がある。
混触危険物質: 特になし
危険有害な分解生成物: 燃焼等により、COx、NOx等の有害ガスや酸化亜鉛等のフュームを発生する恐れがある。

【11. 有害性情報】

急性毒性: 経口: ラットのLD50>5,000mg/kgとの報告(EU-RAR(2009))に基づき、区分に該当しないとされた(ステアリン酸亜鉛)。
経皮: ウサギのLD50値>2,000mg/kgとの報告(EU-RAR(2009))に基づき、区分に該当しないとされた(ステアリン酸亜鉛)。
吸入(気体): 区分に該当しない
吸入(蒸気): 区分に該当しない
吸入(粉塵、ミスト): ラットのLC50値(1時間)>200,000mg/m³(4時間換算値:>50mg/L)との報告(EU-RAR(2009),ACGIH(7th, 2001))に基づき、区分に該当しないとされた(ステアリン酸亜鉛)。
皮膚腐食性/刺激性: 皮膚刺激性の可能性を危惧し、区分3とした。
眼に対する重篤な損傷/眼刺激性: 眼刺激性の可能性を危惧し、区分2Bとした。
呼吸器感作性又は皮膚感作性: データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性: データ不足のため分類できない。
発がん性: データ不足のため分類できない。
生殖毒性: データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(単回ばく露): データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露): データ不足のため分類できない。
誤えん有害性: データ不足のため分類できない。
他の危険有害性: 本製品は粉体であることから、粉塵爆発には十分に注意すること。

安全データシート

【12. 環境影響情報】

生態毒性:	甲殻類(オオミジンコ)の48h EC50>100mg/L、魚類(ゼブラフィッシュ、ブルーギル)の急性毒性試験において水溶解度あるいは水溶解度を3-4オーダー上回る設定濃度において影響が見られない(EU-RAR, 2008)ことから、区分に該当しない。
残留性・分解性: 生態蓄積性:	データ不足のため分類できない。 信頼性のある慢性毒性データが得られていない。急性毒性が区分外、難水溶性(水溶解度=0.97mg/L、EU-RAR, 2008)、急速分解性がない(OECD TG 301D)による28日間の分解度試験による分解度:5%(EU-RAR, 2008)ものの、生物濃縮性が低いと推測される(logKow=1.2(EU-RAR, 2008))ことから、区分に該当しない。
土壤中の移動性: オゾン層への有害性:	データ不足のため分類できない。 データ不足のため分類できない。

【13. 廃棄上の注意】

残余廃棄物:	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従う。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理委託する。
汚染容器及び包装:	容器は関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

【14. 輸送上の注意】

国連番号:	該当しない
品名(国連運送名):	該当しない
国連分類:	該当しない
容器等級:	該当しない
海洋汚染物質:	該当しない
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策:	【6. 漏出時の措置】を参照 【7. 取扱い及び保管上の注意】の章を参照 容器の破損、漏れがないことを確かめる。 荷崩れ防止を確実にを行う。 該当法規に従い、包装、表示、輸送を行う。 火気注意
国内法規制	陸上輸送: 海上輸送: 航空輸送:
	消防法、安全衛生法に従う。 船舶安全法に定められている輸送方法に従う。 航空法に定められている輸送方法に従う。

【15. 適用法令】

国内法	
化審法:	該当しない
消防法:	該当しない
労働安全衛生法:	名称等を表示すべき危険物及び有害物(法第57条第1項、施行令第18条第1号~第2号別表第9)(ステアリン酸マグネシウム)
大気汚染防止法:	有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質(中央環境審議会第9次答申)【1亜鉛及びその化合物】
水質汚濁防止法:	指定物質(法第2条第4項、施行令第3条の3)【54亜鉛及びその化合物】
下水道法:	水質基準物質(法第12条の2第1項、施行令第9条の4)【30亜鉛及びその化合物】
水道法:	水質基準(法第4条第2項平15省令101号)【32亜鉛及びその化合物】
毒物及び劇物取締法:	該当しない
船舶安全法:	該当しない

安全データシート

航空法:	該当しない
火薬類取締法:	該当しない
高圧ガス保安法:	該当しない
化学物質管理促進法:	該当しない
海洋汚染防止法:	該当しない

【16. その他の情報】

参考文献

- 1) NITE 化学物質総合検索システム(CHRIP)
- 2) ezCRIC+ (JCDB, 2023)
- 3) LOLI (ChemADVISOR, 2019)
- 4) 既存化学物質安全性点検データ
- 5) 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ
- 6) JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法-ラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)(2019)
- 7) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法
- 8) 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂6版(化学日報社)
- 9) 国際物質安全性カード(ICSC CARD)

全ての化学品は、同一物質においても使用環境や使用者の体質・体調等により危険性や健康面への影響が一様ではないため、用法・用途に適応した安全対策を実施のうえお取扱ください。記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、含有量、物理的/化学的性質、危険有害性、注意事項等の記載内容は、情報提供であり、いかなる保証をなすものではありません。新しい知見の発表や従来の説の訂正等により内容に変更が生じますことをご承知ください。また、本SDSは国内法に基づき作成されたものであり、国外法に関して対応するものではありません。